

# ウォーター stewardship (責任ある水資源管理) に関するタケダの見解

---

## 概要

すべての患者さんのために、ともに働く仲間のために、いのちを育む地球のために、タケダが革新的な医薬品の創薬と提供というビジョンを達成する上で、水は欠かすことのできない資源です。人口の増加、工業化、汚染、気候変動など、人間の活動によって水源が圧迫される状況が世界各地で発生しています。その結果、清潔な水を得られないという問題が、健康や地域の発展を脅かす要因として、世界的に深刻化しています。

私たちはタケダイズム(誠実・公正・正直・不屈)の価値観に則り、この重要な資源を守るために行動する必要があります。節水の取り組みと責任ある施設運営を通じて、地表水および地下水資源を保護することが、私たちの責務であると認識しています。ただし、このような取り組みだけでは、かけがえのない水資源の長期的な存続は保証されないことも理解しています。そのため、タケダは事業を展開している各集水域およびバリューチェーンで、水源に影響を及ぼしている問題を把握し、これに対処するための状況に応じた Context-based アプローチを採用しています。そして、水需要の逼迫度合いが高いと判断された地域に、優先的かつ集中的に労力やリソースを投入しています。

水資源の保護は、複雑な課題です。水不足は世界的であると同時に局所的な問題でもあり、ほとんどの場合、長い年月にわたって徐々に深刻化してきた経緯があります。それでも、私たちは各地域で水需要の逼迫の原因を調査し、適切な緩和対策を開発し続けています。また、改善戦略を成功させるには、最終的に各集水域における他のステークホルダーとの協調努力が必要であることも実感しています。患者さんと従業員が生活するエリア、事業を展開する地域社会、そしてタケダ自身にとって恩恵となる、有意義な活動へのコミットメントを共有する必要があります。

## 背景

人間の健康と地球の健康が密接に結びついていることを、私たちは認識しています。水不足や、清潔な水が得られない状況は、人間にとって不要な痛みや死の原因となり、食糧生産に打撃を与え、地球の生態系に悪影響を及ぼします。<sup>1,2</sup> 人口増加に伴う都市化の進行と気候変動により、水の需要が増大し続け、欠かすことのできない水の供給が、さらに圧迫されています。<sup>3</sup> 広く認められている水ストレスモデルによると、水危機は今後 10 年間で一般市民に降りかかる最大のリスクの 1 つになると予測されています。水需要量が供給水量を上回る地域が増えているためです。<sup>4,5</sup> 水資源の逼迫は、タケダの事業運営と、事業を展開する地域社会への潜在的リスクです。

## タケダの見解

科学主導のグローバル企業であるタケダは、革新的な医薬品の創薬と提供というビジョンを実現する上で、水が果たす重要な役割を認識しています。水は、タケダのサプライチェーンと切っても切れない関係にあり、患者さんと従業員の生活と仕事の場である地域社会の健康上、極めて重要です。タケダの価値観に従い、この資源を責任ある、透明性の高い方法で管理するという、明確な義務があると私たちは考えています。ウォーターシュワードシップ(責任ある水資源管理)は、タケダにとって最も関連性の高い11の人権の1つとなっています。タケダの行動規範には、事業を展開する地域社会における人権の支持というコミットメントが組み込まれています。人権に関するタケダの声明は[こちら](#)でご覧いただけます。

タケダは事業運営における著しい成長を目指しながらも、ウォーターフットプリント(事業の過程で消費される水の量)を最小化するとともに、事業を展開する地域社会の水資源に、事業運営による悪影響が及ばないように行動しています。具体的には以下の通りです。

- 水効率プロジェクトに投資し、水処理技術および再利用技術を採用することにより、タケダのネットワーク全体での水使用量の削減目標を設定し、目標達成に向けて活動しています。
- 製品開発およびプロジェクト承認プロセスにおいて、取水量評価の実施、廃水の放出による潜在的な影響の判別、影響を排除または削減するための水処理技術の必須化を行うことにより、水資源に起こりうる影響を明らかにし、これに対処しています。

---

<sup>1</sup> 世界自然保護基金(WWF)。(日付なし)。水不足。 <https://www.worldwildlife.org/threats/water-scarcity>

<sup>2</sup> 国連児童資金(UNICEF)。(日付なし)。Water, Sanitation and Hygiene (WASH)。 <https://www.unicef.org/wash>

<sup>3</sup> 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)。(2018年10月)。Global Warming of 1.5°C。1.5°Cの地球温暖化に関するIPCC特別報告書。  
<https://www.ipcc.ch/sr15/>

<sup>4</sup> 世界資源研究所(WRI)。(日付なし)。Aqueduct - 水リスク地図。 [www.wri.org/applications/aqueduct/water-risk-atlas/](http://www.wri.org/applications/aqueduct/water-risk-atlas/)

<sup>5</sup> 世界経済フォーラム。2018年。グローバルリスク報告書2018、第13版。 [http://www3.weforum.org/docs/WEF\\_GRR18\\_Report.pdf](http://www3.weforum.org/docs/WEF_GRR18_Report.pdf)

- 廃水や雨水の排出に対処し、地域の水資源を悪化させないよう、事業施設を運営・管理しています。

タケダは、責任ある水資源管理に対する状況に応じたアプローチを取っています。集水域ごとに固有のストレス要因を理解した上で、多量の水を使用する業務を行う各地域で、水関連のリスクに対処するよう努力しています。この理解を促進するため、以下の作業をプロセスに組み込んでいます。

- 世界的に認められている 2 つの水ストレスモデル (WRI Aqueduct (Current Risk and 2030 RCP 8.5) および WWF Water Risk Filter (Basin Risk)) に基づく予測を相互参照することにより、水ストレスが大きい事業施設を特定しています。
- 水ストレスモデルによるデータを事業場ごとの調査で補完し、モデルの有効性を検証するとともに、潜在的な不整合を特定しています。
- ストレスが「高い」または「非常に高い」と判定された事業場については、水資源をめぐる固有の問題を調査しています。この評価には、水の可用性、品質、アクセシビリティに関するトレンドの分析、政治／規制に関連する側面、インフラストラクチャ、およびレピュテーション関連の要素が含まれます。その上で、事業場の水への依存度を考慮し、関連する水リスクを判別しています。
- 水保全対策の強化に関する期待事項や、地域社会の主要なパートナーとの連携も含めて、集水域ごとに固有の問題に対処するためのリスク緩和計画を策定しています。

影響の大きい部分に労力を集中させ、水リスクを先行的に回避していくために、必要に応じてこの手法を更新し、定期的な見直しを行っています。

## まとめ

タケダは責任ある水資源管理が極めて重要であることを認識し、事業を展開する地域社会における水供給への影響を最小化しながら、水不足と水質の問題に対処するための取り組みを行っています。タケダは、建設的で責任あるウォーターシュワードシップに取り組んでいます。事業運営におけるイノベーションと水消費量の最小化に、今後も取り組んでいく所存です。さらに、すべての人が水を利用できる状態を保つため、地域社会との協力を通じて、今後もこの重要な資源を保護します。

## 武田薬品工業について

タケダは、日本に本社を置き、自らの企業理念に基づき患者さんを中心に考えるというバリュー（価値観）を根幹とする、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニーです。「すべての患者さんのために、ともに働く仲間のために、いのちを育む地球のために」という約束を胸に、革新的な医薬品を創薬し、提供し続ける未来を目指します。研究開発においては、オンコロジー（がん）、希少遺伝子疾患および血液疾患、ニューロサイエンス（神経精神疾患）、消化器系疾患の 4 つの疾患領域に重点的に取り組むとともに、血漿分画製剤とワクチンにも注力しています。

2022 年 7 月